

「意思決定支援」事例の共有と意見交換

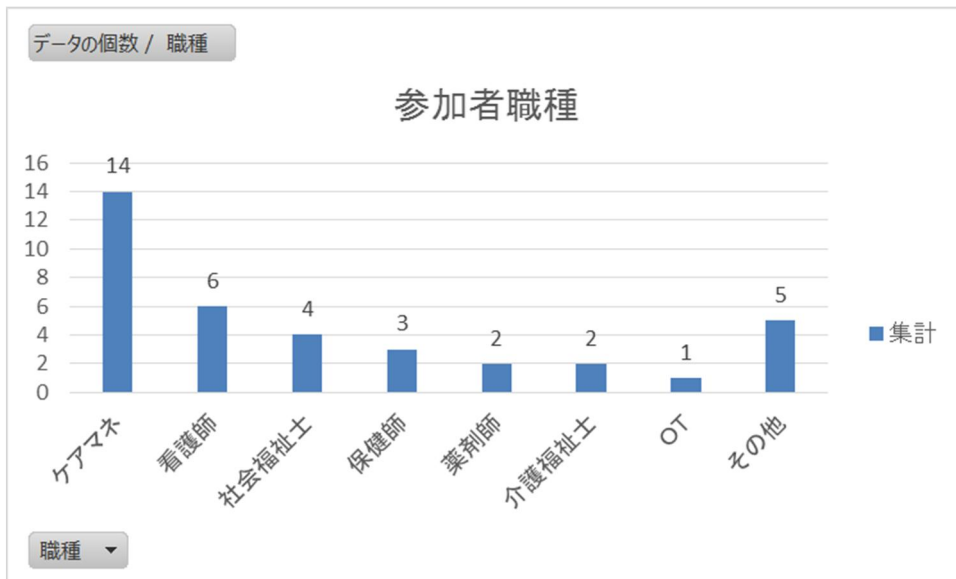
参加者状況及びアンケート結果

開催日:平成 28 年 8 月9日(水) 13:30~15:00

アンケート回収数(回収率):23(62.2%)

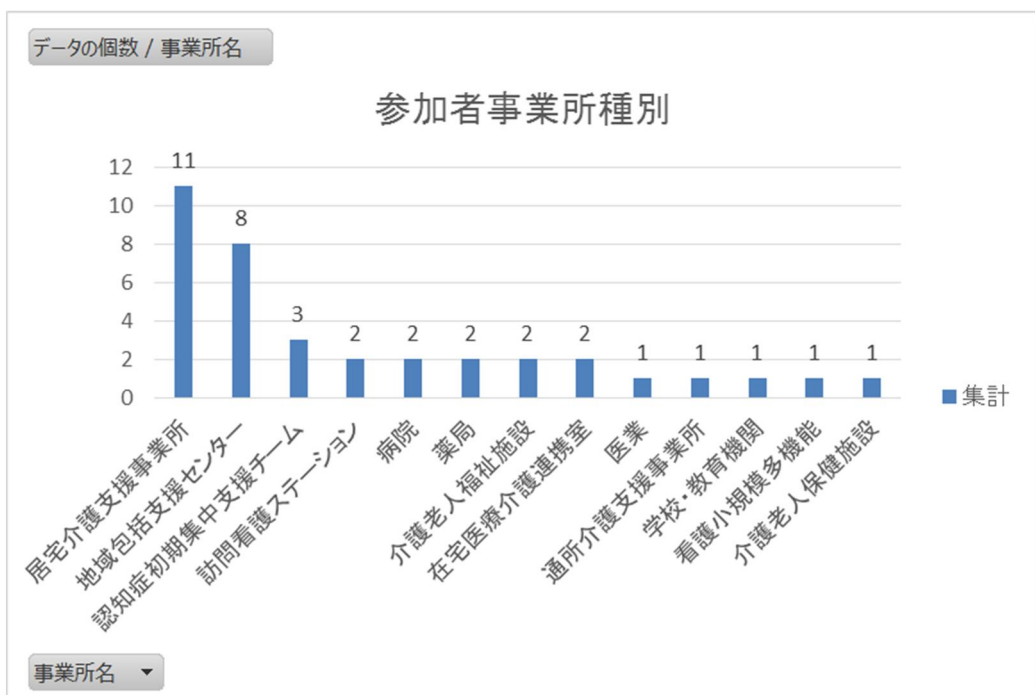
I 参加者情報

- 参加者数:37 名
- 参加者職種



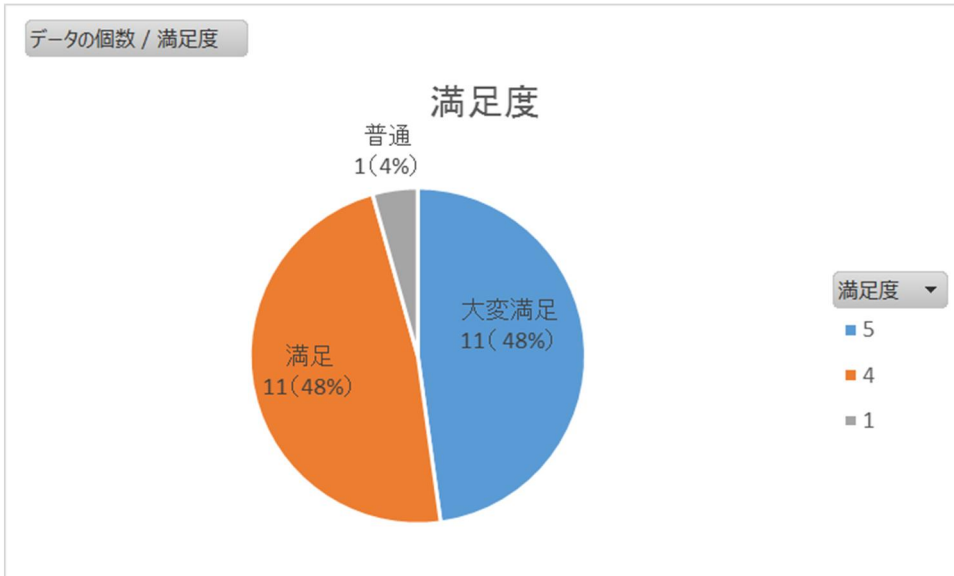
その他・・・管理者(1)、支援専門員(1)MSW(1)、実習学生(看護師)(1)、教員(1)

- 参加者事業所種別



II アンケート結果

1. 満足度



2. 感想

- 本人家族の思いを引き出せるような支援ができればと思った。
- 様々な分野で活躍している方と情報交換ができ、有意義な研修となった。事例からも、共感できる部分、改めて気づかされる部分、参考にしたいこと、様々あった。
- 意思決定における支援について、意見交換を通してとても勉強になった。
- 発表とグループワークで皆の丁寧なかかわりを学ぶ事ができた。「決めること」が大切なのではなく「決める過程」を一緒に支えることが大切なのだと思う。決められなくてもいいと思っている。
- 三事例とも実際に経験したわけではないが、状況を想像すると意思決定支援は本人と家族の意向が大前提で、支援者はいかなる決定であっても最大の支援をしていかななくてはならないと思った。利用者と家族が自分の思いを通した上で生活していくことが満足感につながり、よかったと思えるのではないかな。
- ソーシャルワーカーやケアマネなど、介護にかかわる全ての医療者、介護者の連携がもっとスムーズになると良いと思った。
- ケアプランの本人の意志の欄に本人の意向を書くというアイデアが出されていた。本人の決定を支える人にもそれでいいのか、他の人の意見が入ってきたり、悩みが出てくることもある。本人の意思決定を支える、家族を支える、ケアマネを支える支援、「それでいいんだよ」というだけの支援も必要かもしれないと思った。
- 意思決定支援は技術なのだと思う。学問でもあると思う。
- 事例を通して意思決定に関わったプロセスを教えてもらい参考になった。
- 意見交換をする時間を頂けた事が非常に良かった。事例を聞き、他の職種の観点を聞ける機会は今後も必要だと感じた。
- デスカッションできる事、とてもためになる。ケアマネとして話をよく聞く事、情報を伝える事、連携を行なう事、自分で決められるよう支援していきたい。
- 他者の意見を聞きながら現在自分が関わっている末期利用者様の支援・意思決定の部分で意見交換を行なうことができ、様々な選択肢が生まれた。

- 他事業所の事例を聞くことで、今後の利用者や利用者家族とのやりとりに生かせると思った。
- 多職種からの新しい情報を沢山得られて良かった。
- グループワークで自分の意見を言い、それが誰かに容体化されたとき、なんだかふっと力が抜け、心がしっかりと落ち着く。それだけでも良い勉強になる。
- 事例で、家族の意向が違う場合、寄り添う事業所、ケアマネとしてどのように誘導して行ったらいいか悩む。迷ったときに最期に本人に聞いてみては？と、さらっと振る言葉が私も印象的だった。「そういう選択肢もあるのか」と勉強させられた。
- 事例の中で対応のところ、思いを聞けるのが良かった。専門職の集まり、チーム力の大切を学んだ。
- 他者と直接話ができる、ディベートできる勉強会が良かった。

3. 今後当連携室の研修に希望するテーマ

- 介護認定重度者の自立支援
- ターミナルケアについて